

ハネウェル社製航空機用救命無線機に対する耐空性改善通報の発行について平成25年8月16日

国土交通省航空局安全部航空機安全課

7月12日（英国時間）に発生したエチオピア航空のボーイング787型機の事案を受け、国土交通省では、787型機に搭載されたハネウェル社製の固定型航空機用救命無線機（ELT）の点検又は取卸しを指示するとともに、787型機以外の航空機に搭載されたハネウェル社製固定型ELTに関しても、米国連邦航空局（FAA）や欧州航空安全庁（EASA）とともに、当該ELTの設計製造国政府であるカナダ航空当局（TCCA）と対応策について調整をしてきたところです。

今般、TCCAが、ハネウェル社製固定型ELTを搭載した航空機に対し点検を指示する耐空性改善命令（AD）を8月15日（カナダ時間）付けで発行したことから、国土交通省としても、本日15時、我が国の運航者に対し、同内容の耐空性改善通報（TCD）を発行しましたのでお知らせします。

なお、我が国運航者にあつては、既に当該ELTに対する自主的な点検を完了しており、当該ELTの安全性を確保しているところです。

（我が国における当該TCD対象機数）

ボーイング式737系列型 1機
ボーイング式747-400型 4機
ボーイング式767系列型 21機
ボーイング式777系列型 13機
ボーイング式787系列型 30機（※うち8機はELT取卸し）
エアバス式A320系列型 13機

添付資料

[ハネウェル社製航空機用救命無線機に対する耐空性改善通報の発行について](#)（PDF形式）

[（別添1）ハネウェル社製ELTに対する耐空性改善通報に関する経緯](#)（PDF形式）

[（別添2）耐空性改善通報 TCD-8234-2013](#)（PDF形式）

<http://www.mlit.go.jp/common/001007696.pdf>

（報道より）

○日本テレビ国交省、B787以外も無線機の点検を指示< 2013年8月16日

先月、イギリス・ロンドンでエチオピア航空のボーイング787型機から火が出たトラブルで、国土交通省は国内の航空会社に対し、787型機以外の機体についても出火原因とみられる無線機の点検を指示した。

このトラブルは現地時間先月12日、ロンドンの空港に駐機していたエチオピア航空の787型機から出火したもので、航空機用の救命無線機が出火元の可能性があるとして、今も調査が続いている。国土交通省は先月26日、同じ救命無線機を搭載している787型機について、点検などを指示する耐空性改善通報を出したが、16日、同型の救命無線機を搭載している787型機以外の機体についても点検するよう指示した。

新たに対象となるのはボーイング767型機やエアバスA320型機など計52機で、全日空や日本航空など国内4つの航空会社が保有している。国土交通省などによると、52機についてはすでに航空会社が自主点検を行っており、安全性や運航に問題はないという。